

難病・慢性疾患全国フォーラム2015アピール

2010年、私たちは3団体の呼びかけによって「新しい難病対策」と、遅れている「慢性疾患対策」の新たな方向の確立を求めて、「難病・慢性疾患全国フォーラム」を立ち上げました。

多くの難病患者・家族の団体と長期慢性疾患の患者・家族団体とともに、医療や企業などの関係者、報道機関など難病を取り巻く多くの関係者が集い、患者・家族の置かれている現状を共有し、様々な議論をへて、国の難病対策について大きな影響力を発揮しました。

2013年には、それまでの障害者福祉サービスの殻を打ち破り、症状が変化する「難病」も対象とする「障害者総合支援法」をかちとり、2014年には「難病の患者に対する医療等に関する法律」および小児慢性特定疾病対策を義務化する「児童福祉法一部改正法」を成立させ、これからの日本における難病対策と慢性疾患対策の在り方についての大きな足場を築くことができました。

そしてそこにはさらに多くの課題があることも明らかにすることができました。

私たちはその課題を分析し、病気によって苦しんでいる多くの難病や慢性疾患の患者・家族のためにその解決の道を見つけ出さなければなりません。その目的を達成するためには患者・家族団体とともにさらにいっそう大きな行動を起こさなければならないと考えます。

難病患者・障害者・高齢者と子どもたちが安心して暮らせる社会を目指し、私たちの活動を一層大きなものとするために、大勢の参加で作り上げてきた難病・慢性疾患全国フォーラムの灯を消すことなく、日本の社会保障の拡充を求めて、一層大きな連帯の場をつくりながら、今後も、新たなかたちで社会にむけてのアピールを続けていきます。

2015年11月7日

難病・慢性疾患全国フォーラム2015

参加者一同